

AOTCA Bali Tax Conference 2022 でプレゼンテーション

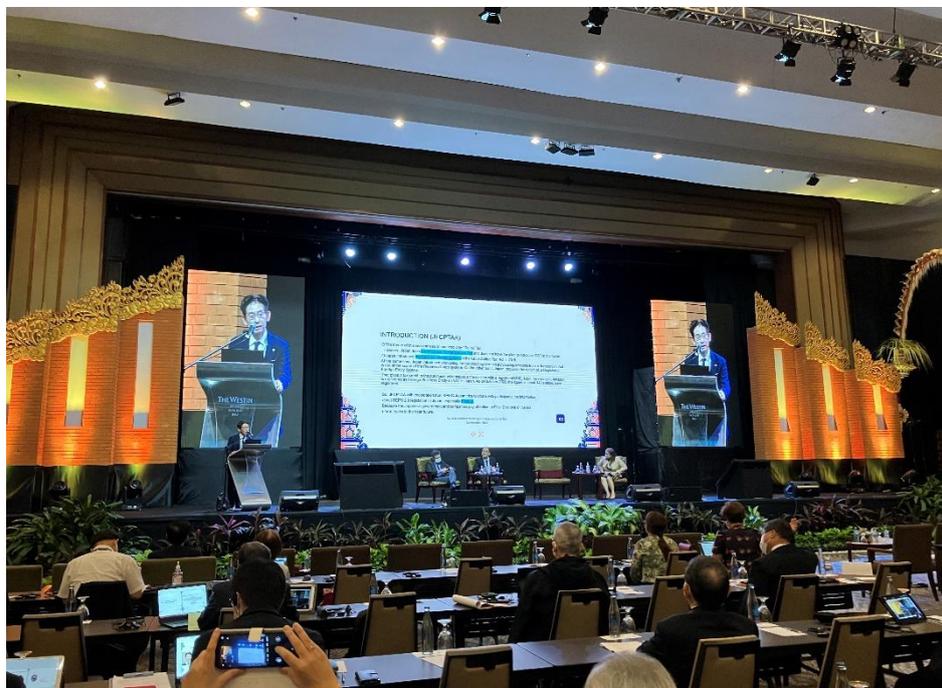
2022年11月24日、長谷部代表（日本税理士会連合会国際税務情報研究会）は、アジア・オセアニア税務専門家協会（AOTCA：マリー・ペレス会長（フィリピン））の年次タックスカンファレンスのパネリストとして、「Latest Trends in Japanese BEPS2.0 legislation」をテーマに、英語でプレゼンテーションを行った。プレゼン資料は、テーマに関するエキスパートである同研究会の小出一成委員（KPMG JAPAN）からご提供頂いた。

AOTCA はアジア・オセアニア地域の税務専門家団体に構成される団体で、日税連が中心となり、税務実務家の視点から、国際税務に関する研究や情報交換をする目的で、1992年に設立された。現在、16の国と地域・21団体が加盟。

近年は、OECD（経済協力開発機構：本部フランス・パリ）の要請を受け、国際的な税の公平性を目的とした BEPS プロジェクト（多国籍企業による税源浸食や利益移転への国際的対応プロジェクト（2015年スタート））の受け皿となり国際的な評価が増している。

Bali Tax Conference はコロナ禍の影響を受け2年延長、今回3年ぶりにコロナ対策を施しながら、日本、韓国、オーストラリア、フィリピン、香港、インドネシア、中国、台湾、モンゴル、ベトナムなどが参加（一部オンライン）した。

長谷部代表にとって、AOTCA Tax Conference での英語によるプレゼンテーションは2012年の韓国ソウルカンファレンス以来2度目となった。



Bali WESTEN Nusa Dua 国際会議場。セッション2では、長谷部代表の他、ベトナム、中国、フィリピンのパネリストからの報告とQ&Aセッションが行われた。